SENDAI BOSAI TECH

仙台市BOSAI-TECHイノベーション創出促進事業 実証実験サポートプログラム(2021年2期) 実証実験成果報告書

- ①消防団アシストアプリS.A.F.E.(セーフ)の 福島県古殿町での新機能実証実験
- ②仙台市消防局での実証実験に向けたヒアリング

要約

消防団アシストアプリS.A.F.E.(セーフ)の福島県古殿町との新機能実証実験

1. 背景と課題



織で「地域防災の要」であり「地震」「火 災」「水害」「捜索」「啓発」という様々 な災害発生時などに「即時対応」できる組 織として重要な位置づけで活動している。 全国約1700の自治体のうち全消防団員数 は約80万人で年々「減少傾向」にあり「被 雇用者が増可」している。より効率的に消 防団活動を支援する為のツールとして 「SAFE」を開発した。 新機能として 「災害現場の登録|「出動報告|「避難所 の管理」を福島県古殿町と実証実験を実施 する。及び仙台市消防局への実証実験に向 けたヒアリングを実施する。

2. 実証実験の実施内容



実証実験はR4年2月21日、9時開始。古 殿町から1名、情報整備局から2名、 古殿町役場にて実施。

新機能である「災害現場の登録」「出動報 告」「避難所の管理」の検証を行った。

R3年11月22日、仙台市消防局でヒアリン グの実施。

3. 実証実験結果

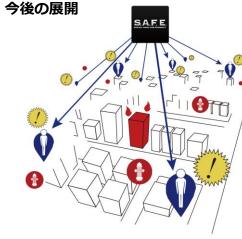


動作確認に関して問題なし。 登録アイコンの変更。 来年度新たな機能について使用検討を行う。

ヒアリング結果

- ・SAFEの機能全般に対する評価。
- ・出動記録を管理できる機能の評価。
- ・今後、実証実験を検討する為の同規模自 治体での実績情報の要望等。





令和4年度、新機能の運用開始に向けて、 SAFE導入自治体への周知。

導入自治体へのSAFE新規機能を活用した 防災訓練の提案。

令和4年度に仙台市消防局への同規模自治 体の導入実績についての進捗報告。

SENDAI BOSAI TECH 情報整備局

1. 背景と課題 (1/2)

消防団は「地域防災の要」

- ・消防団は全国約1,700の自治体に設置されており「地震」「火災」「水害」などの災害時の活動及び「捜索」「啓発」などの活動を行っており、「即時対応」できる組織として重要な位置づけである。
- ・全国の消防団員数は約80万人で年々 「減少傾向」にあり「被雇用者が増可」 している。

より効率的に消防団活動を支援する為の ツールとして「SAFE」(セーフ)を開 発した。



S.A.F.E.の主な機能をご紹介します



通知で火災を把握できる!

消防本部や事務局が出した情報を直接 全団員へ通知。火点をマップに表示するので、 発生場所もすぐに把握。



水利を一目で把握できる!

水利台帳を開かなくても、画面上で水利が どこにあるか一目で確認。平時には 点検記録をつけることもできます。



団員・車両が把握できる!

ボタンを選ぶだけで返答が簡単に! 他の団員の運転の可否や到着予定時間、 車両の現在位置が把握できます。

SENDAI BOSAI TECH

1. 背景と課題 (2/2)

課題

- ・災害発生時に消防団員が警備等した箇所を災害対策本部と情報共有する方法は電話がメインである。 ⇒電話だと対応や整理に時間がかかる。アプリで地点等を登録する事で可視化共有できるのでは。
- ・出動報告に関して、とりまとめをする団員が紙で提出している。 ⇒窓口まで行く負担、紙から計算の労力を、<u>アプリで出動報告を行うことで削減できる</u>のでは。
- ・避難物資の在庫管理等において、職員間の情報共有をより効率化したい。 ⇒避難所の物資の在庫確認等を<u>職員間で共有できる機能があると便利</u>なのでは。

「災害現場の登録」「出動報告」「避難所の管理」を開発し福島県古殿町と実証実験を実施する。

・SAFEの営業展開を加速させたい。多くの自治体に知ってもらいたい。 ⇒東北の政令指定都市である仙台市の<u>消防局との実証実験に向けたヒアリング</u>を実施する。

2. 実証実験の実施内容(1/4)

実施日程、実施場所、実施体制

令和4年2月21日 福島県古殿町役場庁舎内 古殿町総務課1名 情報整備局2名

実証実験の内容「災害現場の登録機能」

災害時に消防団員は警備や防災活動を行い「被害箇所」 を災害対策本部と共有する。例として、大雨警報時には道

路の冠水状況を確認し「通行止め」「地域住民の避難誘導」「土嚢(どのう)積み」などを行う。

災害発生時等に消防団員が警備した箇所を「SAFE」 に「テキスト」や「画像」を「マッピング」し災害対策本 部や消防団員間で「共有」できる機能を実装し、災害発生 時に迅速な情報の共有を図る。

⇒動作、災害の種類、画像表示、アイコン等を検証





2. 実証実験の実施内容(2/4)

「出動報告機能」

消防団員が災害等に出動した際に、所属する自治体から「手当」が発生する。これまで紙で出動報告されてきたものを「SAFE」で行うことで事務の効率化を図る。

⇒動作、出動時間の表記、出動内容を検証





2. 実証実験の実施内容(3/4)

「避難所の管理」

避難物資の在庫管理等において、情報の共有化が課題となっている自治体もある。避難所の物資の在庫確認等を職員間で共有できる機能を検証した。

⇒動作、アイコン、施設の種類等の各項目を検証





2. 実証実験の実施内容(4/4)

「仙台市消防局ヒアリング」

11月22日 10時30分~11時30分 仙台市消防局庁舎内 仙台市消防局総務部総務課消防団係2名 仙台市経済局産業政策部産業振興課2名 仙台防災テック事務局1名 情報整備局1名

ヒアリング内容

- ・仙台市でも同様のアプリを導入している(全消防団員が使えて、メールを登録するアプリ)
- ・SAFEは非常に良いアプリだと思う。
- ・仙台市のような大きい自治体だと、消防団の方にもちろんサポートいただくが正職員で対応できてしまう 部分もあるので、導入は現状難しいのでは。ただ、正職員と消防団の方が連携できるようなアプリになる と大きな自治体も導入しやすくなると思う。
- ・団員の出動記録を管理できる機能は非常に良いと思う。
- ・通常業務でも使うようなシステムになると消防団の方のダウンロード数も自ずと増えるのでは。
- ・仙台市と同程度の規模の自治体の実証実験の結果をぜひ聞きたい。

3. 実証実験結果

「災害現場の登録機能」

- ・ダブルタップで登録地点が選択できるので、操作しやすい。
- ・最新の情報にするためには画面右上の更新ボタンを押す必要があるが、問題ない。直観的に分かる。
- ・アイコンは「!」の注意を意図するアイコンを準備する。
- ・来年度、町の防災訓練時に使用を検討し、消防団員や災害対策本部との情報連携強化に期待する。

「出動報告機能」

- ・動作問題なし。上の階級である分団長あるいは団長の承認ができる機能も必要。次年度使用時までに 実装予定である。
- ・「紙」で窓口に提出する出動報告が、「SAFE」でできる事で事務の効率化が期待できる。

「避難所の管理」

動作問題なし。アイコンをデザインされたものを用意する。

4. 今後の展開

- 実証実験の結果から得た改修作業。
- 令和4年度の新機能の運用開始に向けて、SAFE導入自治体への 周知。
- 全国の自治体へのPR。
- 導入自治体へ新規機能を活用した防災訓練の提案。
- 仙台市消防局への同規模自治体の導入実績についての進捗報告。



